

地方民鉄紀行

一面に広がる水田と六道湖。

日本の原風景が望める電車には、

利用促進を目指した、

ユニークな試みが行われている。

一畑電車



毎月、第1土曜日の朝、一畑電車には市

が立つ。ホームや駅構内にはない。「楽市楽電」と名付けられた2両編成の電車

の中に、お店屋さんが並ぶという。お店に「乗車」するために、朝9時、松江

しんじ湖温泉駅へ向かう。

乗って、買って、食べて、しゃべって

行き先に「臨時」と表示された電車、それが「楽市楽電」だ。外見は通常車両と変わ

ないが、中に入ると音楽が流れ、片側の座席シートには商品棚が据えられている。

乗客が乗り込むと、さっそく電車が動き出す。スピードはゆっくりで、商品を見て歩く

のに気になるほどの揺れはない。ひときわにぎやかなのは、色とりどりのゆ

かたを着た地元の女子高生たちが売る「冷製ぜんざい」のお店だ。部活動の一環として、

度々、地域のイベントなどでぜんざいの販売を行っている彼女たち。ガスの使えない「楽

市楽電」でも、暑い季節なら冷たいぜんざいも良いだろうと、今回、初参加したという。

紅白のハート型の白玉が入ったぜんざいは、女の子らしくて可愛い。

アクセサリやTシャツ、炊き込みご飯や六道湖の蛸にケーキ……。本来は出雲空港でしか買えないはずの人気の空弁「牛めし」まで

売っている。購入した食べ物、持ち帰っても、そのまま車内で食べてもいい。

「試しにいかがですか」。ケーキ屋さんから試食のクッキーが差し出され「これからどこ

に?」これがおいしい?と、おしゃべりが始まる。

食事をしながら、しゃべりながら、思い思いに時間を過ごす。なんとも自由な雰囲気だ。

電車に人を集めたい

少しでも多くの人に電車を利用してもらいたい。そんな思いから一畑電車では、サイクルトレインやパーク&ライドといった取り組みをいち早く実行。昨年から始まったこの

「楽市楽電」の運行も、そうした取り組みの一つだ。

参加するお店は毎回10店前後、すべて松江や出雲といった地元の商店だ。残念ながら今

回は不参加だったが、「出雲の神芝居一座」が乗車して、運行中に紙芝居を上演してくれる

こともあるそうだ。

今回で10回目の運行になるが、全回出店という常連さんも多く、地元の協力に支えられている。乗客には観光客が多いように見える

が、地元の人にも知ってもらい、楽しんでもらえるようにしたいと、毎回、試行錯誤を繰り返しているという。

現在は、地元の大学と協働して大学生に「楽市楽電」を丸ごとプロデュースさせてみるという企画が進行中とのこと。

どんな電車が走ることになるのだろうか。

ゆっくりゆっくり3時間

さて、行く先が「臨時」となった「楽市楽

電



片側の座席は商品で一杯

一畑電車

【いちばたでんしゃ】

松江しんじ湖温泉から電鉄出雲市を結ぶ北松江線と、その途中、川跡から枝分かれして出雲大社前までを結ぶ大社線を有する。今年5月公開の映画「RAILWAYS」の舞台となったことでも有名。





ゆかた姿があでやかな売り子さん



奥出雲和牛を使った日本料理「ほう吉」の空弁「牛めし」と宍道湖名物の蜆



一畑電車には、「絵になる駅」が多い。中でも赤や青のステンドグラスがはめ込まれたドーム状の屋根を持つ出雲大社前駅は、「レトロ」という言葉がよく似合う。ほの暗い駅舎に置かれた券売機や時刻表なども霽囲気があって、写真を撮る観光客も多い。

出雲を訪れる多くの観光客のお目当て、出雲大社の大鳥居までは、駅前の神門通りを徒歩で5分程度。平成25年まで出雲大社は、大遷宮（御本殿の修造）のため、参拝は御仮殿になっている拝殿ですませる。

出雲といえば

一畑電車には、「絵になる駅」が多い。中でも赤や青のステンドグラスがはめ込まれたドーム状の屋根を持つ出雲大社前駅は、「レトロ」という言葉がよく似合う。ほの暗い駅舎に置かれた券売機や時刻表なども霽囲気があって、写真を撮る観光客も多い。

出雲を訪れる多くの観光客のお目当て、出雲大社の大鳥居までは、駅前の神門通りを徒歩で5分程度。平成25年まで出雲大社は、大遷宮（御本殿の修造）のため、参拝は御仮殿になっている拝殿ですませる。

電」は、松江しんじ湖温泉駅を出ると、川跡などいくつかの駅を経由して、まずは北松江線の終点、電鉄出雲市駅に向かう。そこから再び川跡に戻り、最後は大社線の終点、出雲大社前駅まで走る。

途中の津ノ森駅や雲州平田駅などでは20〜40分間停車しながら、ゆっくりと進む。こうした停車時間の長い駅では、入場券で買物だけにやってくる人もいるし、定期列車を待つ人がふらりとのおきにきたり、一畑電車の社員の方がお弁当を買いにきたりもする。

終点の出雲大社駅ですつと乗車すると約3時間という道のりになるが、もちろん乗り降りは自由。途中の停車駅から定期列車に乗り換えて目的地へ急ぐこともできる。

買い物を楽しんで、雲州平田駅で「楽市楽電」にお別れ。定期列車で出雲大社前駅へ向かう。

ぜいたくな日常

出雲大社のお参り方法は、「2拝4拍1拝」。他とは違う作法に戸惑いつつも無事、参拝終了。左右に並ぶお土産物屋や茶店をのぞきながら、神門通りを駅へ戻る。

松江へ戻る帰りの電車は当然、定期列車だ。話し声に溢れていた「楽市楽電」と比べると、定期列車は驚くほど静か。ゴトンゴトンという走行音がやけに大きく感じられる。

ところで、一畑電車は進行方向に向かって右側の座席に座るのがお勧め。出雲大社前駅から松江に向かう電車では、初めのうちは一面の水田が、一畑口駅でスイッチバックした後は宍道湖が向かい側の車窓に望める。

座席に座ると視線が下がり、場所によっては、車窓に見える景色が空と湖だけになる。まるで電車が水の上を走っているような不思議な光景だ。

移り変わる景色はどれも絵のように綺麗で、思わず子どものように窓にかじりつく。我に返って車内を見渡すと、同じように景色に見とれる観光客と、本を読んだり携帯電話を操作したりしている地元の方の姿が対照的で面白い。

観光客には魅力的な沿線の景色も、地元の方には日常の一部。通勤通学等で日々、目にする景色になれば、見とれることもないのだから。そうはいっても、思ってしまう。こんな景色が日常なんて、なんてぜいたく、うらやましい！



レトロな「出雲大社前駅」



車窓に広がるまだ緑色の水田



出雲大社のお参りは「2拝4拍1拝」